

遂に完成！名古屋城本丸御殿十二之丸庭園研修

～天守閣に入れない今、どう説明する！？～

2018年7月19日(木)実施 JGA 第二支部研修レポート

天下を取った徳川家康が、江戸防衛と新しい経済拠点として築き上げた名古屋城と名古屋の町。1945年の空襲でほとんどが焼けてしまいましたが、町は復興を遂げ、天守閣は1959年に再建。しばらく礎石だけになっていた本丸御殿の復元工事に着工したのは、2009年のことでした。三期に分けて工事を進め、表書院と玄関部分が2013年に公開され、続いて対面所、下御膳所が2016年。そして遂に残る上洛殿が完成し、2018年6月8日に全面公開となりました。それと前後し、天守閣が木造再建に向けて登閣できなくなった今、観光の中心となる本丸御殿と、国指定名勝庭園である二之丸庭園の知識を深めようと、名古屋城総合事務所の学芸員、伊藤正人様を講師にお招きし、研修を行いました。

当日はうだるような暑さであったにも関わらず、参加者14名は、上洛殿の絢爛豪華さに圧倒され、感嘆のため息が・・・それぞれの部屋を飾る襖絵や欄間のモチーフの意味や、復元を請け負った現代の職人たち、また復元に当たった逸話など、ホームページやガイドブックに載っていない貴重なお話を伺うことができました。また、本丸御殿内の一室(孔雀の間)は、会議室として一般の利用が可能となっています。

今後、保存、修復、整備をはかることとなった二之丸庭園を歩き、石垣や南蛮塀など興味深いものを見た後、本丸御殿に戻り、将軍家光上洛に際して用意された湯殿書院、黒木書院を見学。将軍の入浴シーンを想像しつつ暑い熱い名古屋城の一日は暮れていったのでした。

